



愛隣幼稚園.....

園だより

.....18.4月号

新しい年の始まりに

新しい1年が始まりました。いつもなら進級した子どもたちの始業日、そして入園式の頃にはまだ園庭の桜が名残の花吹雪で子どもたちを迎えてくれるのですが、残念です。今年の桜は早々にピンクから若緑へとバトンを渡してしまいました。春は一気にやってきました。3月に入り、やれやれ今年はやっと沈丁花だ、と思っていたら雪柳が咲き、木蓮と桜が重なるように咲いて、あっという間に散って行ってしまいました。私の住まいの周りにもマンションが管理する植栽が、四季折々の花で住人の心を癒してくれています。毎年春には、私の好きな雪柳も、流れるような枝に可憐な白い花を咲かせて心躍る春を演出してくれていました。ところが・・・どうしたことか今年は、春を前に雪柳の植え込みが四角く刈り込まれてしまったのです。「なんで?!」私は驚くやら悲しいやら。だって、枯れ枝のように見える雪柳の枝々には本当に小さな小さな花芽が、すぐそこまでやって来た春の準備をしていたのです。「どうして?なんのために?もうあとほんの少しだったのに・・・。」案の定、今年、我が住いの周りの雪柳は、ほとんど花を咲かせることができませんでした。また、わずかに花をつけたその姿も、本来の風に揺れる白い美しい枝ぶりはなく、折角の春を謳歌できずに終わってしまいました。恐らくこの剪定は、長く伸びる枝が歩く人の邪魔になるからという配慮のためだったかと想像されますが、それにしても、雪柳が雪柳らしく装うことができなかった春を、私は本当に残念で恨めしくてならなかったのです。

話はがらっと変わりますが、この春、文科省が幼児教育の方向性を示す幼稚園教育要領が改訂され実施されることとなりました。私たちはこれを受け、愛隣幼稚園の保育を、愛隣幼稚園の保育目標に照らして確認していく1年にしたいと考えています。そこでご家庭の皆さんとも、愛隣幼稚園の保育目標を改めて確認したいと思います。(たまに思い出していただくと嬉しいです。)

＜愛隣幼稚園 保育目標＞

- げんきで生き生きあそぶ子
- はりきって、いっしょうけんめいやって、へこたれない子
- くふうする子、なぜ?ふしぎ!と感じる子
- ともだち思いで、なかまをひろげる子
- よくきき、よく考え、決め、伝えられる子

私たちが目指し、期待する子ども像がここには現されています。ひとり一人が主人公になり、自由で主体的な“あそび”を中心とする生活を通して、こんな子どもたちに育ててほしいと私たちは願っています。しかし、目指す姿は一樣ではありません。ひとり一人が違っているからです。育ち方も、芽吹きの時も、咲かせる花も皆違っているのです。ですから、共に生きる私たちは、育とうとする一人ひとりをよ〜く見なければなりません。見えないくらい小さな若芽や花芽を私の都合で刈り込んでしまわぬように。伸びゆく時を見逃さぬように。追肥の時を間違えぬように。水を絶やさぬように。光が届くように。私たちは子どもたちひとり一人が、その子らしく、この時を謳歌できるよう、共に歩き、共に泣き笑いながら、その成長を喜ぶ大人たちでありたいと思います。雪柳には雪柳の育ちがあってこそ、雪柳らしさを謳歌してその花を咲かせることができるのです。